

コラム 磯焼け対策等（北海道開発局、寿都町、神恵内村）及びナマコ増殖手法（北海道開発局、苫前町）に関する技術指導

磯焼け対策に関する技術指導

磯焼けとは、「浅海の岩礁・転石域において海藻の群落(藻場)が季節的消長や多少の経年変化の範囲を超えて著しく衰退または消失して貧植生状態となる現象」です。

北海道の日本海側は、暖流の影響により太平洋側に比べ栄養塩が少ないこと、海藻の幼芽時期である冬季においてウニの食圧が衰えないことなどの理由から磯焼けが進行しており、早急な対策が求められています。

この対策として、北海道内の港湾・漁港において、防波堤や護岸の背後に藻場造成を目的とした小段を配置した自然環境調和型沿岸構造物が整備されてきました。しかしながら、最近の沿岸環境の変化とも相まって、現状の背後小段構造ではウニの食圧を低減できず藻場造成効果を十分に発現できない事例も出てきています。

北海道の日本海側に位置する後志管内では、22年度より関係機関による「後志管内磯焼け対策連絡会議」(写真-1)を開催し、深刻化する磯焼けに関する情報交換や対策の検討を行っています。水産土木チームでは、ウニの食圧低減対策として、背後小段の天端水深を浅くすることによる流動改善対策を提案しました。これに基づき、嵩上げ工事が実施されており、現在、良好な藻場が形成されています。



写真-1 対策連絡会議での意見交換

ナマコ増殖手法に関する技術指導

近年、日本から中国へのナマコ輸出が増えており、北海道においてもナマコ漁業は重要視されてきています。特に、日本海沿岸では、漁業者の高齢化の進展により沖合漁業から磯根漁業へ転換を図る必要が生じており、ナマコの種苗生産など栽培漁業の振興が求められています。

北海道の日本海北部に位置する苫前漁港では、ここ数年ナマコの漁獲量が減少したことから、漁港内又は漁港近傍海域において、ナマコ種苗放流を行うなど資源の増大に取り組んでいます。

しかし、ナマコ漁業では人工種苗生産技術はある程度進んでいるものの、飼育・生育の技術は確立されていません。水産土木チームでは、苫前町からの要請を受け、これまでに取り組んだ貝殻増殖礁(写真-2)の研究成果を踏まえ、ナマコ増養殖機能を有する漁港施設整備に向けた調査方法を提案しました。これに基づき、27年度に開発局においてナマコ生息環境調査が行われます。今後、水産土木チームでは、開発局等と連携してナマコ増養殖技術の開発に取り組むこととしています。



写真-2 杉貝殻礁に蛸集したナマコ